

三篠地区社協福祉協議会 会長就任ご挨拶



三篠はひとつ

～福祉のまちづくりプラン改定への取り組み

三篠地区社会福祉協議会
会長 桑原 量

昨年11月、水戸川会長の後任として、皆様からのご推挙を賜り会長を拝命しました。前会長の多大なご貢献に敬意を表し、感謝を申し上げます。

長引くコロナ禍の中、多くの地域行事が中止となり、三篠社協を構成する町内会・自治会、部会の活力が失われました。コロナ対応のため、出会い・触れ合いを求めている方々に、大切な場を提供できなかった口惜しさがあります。

令和4年度は、ウィズコロナ時代において行動制限のないゴールデンウィークの光景があり、なつかしい風景が戻ってきました。この機を捉え、感染防止策をとりながら、新たな日常を作り上げ、地域行事実施に取り組んでいきたいと思えます。

三篠社協は、「三篠はひとつ」を目標にして活動中です。その軸になるのは、三篠社協会員ひとり一人です。三篠社協会員ひとり一人が軸になり、家族の絆・地域の絆が生まれます。会員ひとり一人の目線に寄り添い、その結果、地域の福祉・賑わいにも貢献できればと思えます。

そのため、三篠社協は過去の変化分析・将来の変化予測を織り込んだ福祉のまちづくりプラン改定への取り組み、地域社会の目指す将来像・取り組み課題・取り組み体制を会員と共有し、「三篠はひとつ」に向かって、前進したいと思います。



コロナ禍での 公民館と地域活動

(三篠公民館、横川カンパイ!王国)
岡田 高旺

「つどう」、「まなぶ」、「むすぶ」が公民館の大きな役割といわれていますが、令和2年4月に三篠公民館に赴任してからの間は、新型コロナの影響でその活動が幾度も制限され、公民館まつりが2年続けて中止になるなど、非常に残念な状態が続きました。それは以前より私が関わってきた横川商店街でのゾンビナイトやガワフェスなどの各種事業を展開する上でも同様であり、せっかく建国した「横川カンパイ!王国」もその目的であるインバウンドの促進や異文化交流などが十分に果たせず、悔しい思いをしてきました。

こうした中で、公民館では新しい生活様式に沿った、また、地域の特性に注目した事業を職員とともに企画し、様々なオンライン事業や地域の達人シリーズなどを実施し好評をいただいています。

またこの地域がかつて藍の産地だったことや在住外国人が多いことに着目し、



令和3年度より、地域や小学校とともに藍の復活・活用プロジェクトを開始するとともに、令和4年度からは多くのボランティアにご参加いただき、新たに「みささ日本語交流ひろば～にじいろ～」を開設しました。

現在、世の中はコロナ、災害、戦争、貧困などにより格差が拡大し、「将来に希望が持てない、生きづらい」という声も聞かれます。また、マスク

着用で他人を意識しない人や接触を控える人が増え、気遣いや協調性に育まれてきた私たちの心や幸福感が失われていくのではと案じられています。だからこそ、人に働きかけたり、少しでもつながったりしていくことが大事であり、かつては皆がそうだったように、地域や他者を思う気持ちが協調性を生み、幸福が伝播する社会につながっていくことが期待されていると思われます。

公民館もそうしたきっかけづくりの場になれるよう、地域や学校等と連携して積極的に取り組んでいきたいと思っています。



主任児童委員は 子どもを対象に活動

三篠地区 主任児童委員 谷川 美樹

私たちの住む三篠小学校区には16の町内会や自治会組織があり、その組織ごとに民生委員、児童委員が任命されています。その中でも子ども専門に活動する主任児童委員が2名います。主な活動は地域の子どもの関する相談を受けたり、中広中や三篠小の学校運営協議会に所属し、学校と関わりをもったりする事で、児童や生徒の健全育成のお手伝いをしています。

中広中や三篠小では学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールの取り組みとして、地域と学校が目標やビジョンを共有し、地域全体で子どもの学びや成長を支えていこうという動きが益々活発になっています。その一つとして先日行われました「横川カンパイ!王国 ふしぎ市」では、中広中学校2年生が商店街の方のご指導のもと、授業の時間を使いアイデアを出し合い、プレゼンを行い、出店内容を決め、当日はブースで販売を体験しました。また街のあちこちに貼ってあったポスターも生徒たちの作品です。

三篠小学校でも昨年度から6年生の児童が地域の方と一緒に藍染の取り組みを始めています。2年目となる今年度は、藍の種から藍を育て染色し作品にするまでを体験する計画です。

こうした学校と地域が一体となり協力をする事で子どもの学びや体験は豊かになり、地域も子どもを知ることで、防犯や防災の面でも良い結果が生まれるのではないかと思います。



みなさま、こんにちは、 三篠児童館です

館長 名島 明美

児童館は一般児童、また、未就学児のお子様も保護者同伴で利用できる施設で、建物の2階は放課後児童クラブの専用室です。

令和4年度の同クラブは、三篠小学校にあるプレハブ教室と併せ4クラス156名の子どもたちが利用し、とてもにぎやかな館内です。

児童館は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、臨時休館が続いていましたが、ようやく部分開館ができるようになりました。当面土曜日のみの開館になりますが、工作や映画会、また季節行事など、楽しい行事を計画していこうと思っています。児童館の行事には、児童館を拠点に活動される地域ボランティアの母親クラブさんから、工作の材料やお楽しみ会のお土産など、手厚いサポートをいただいています。

令和3年度より、児童館の利用にあたっては、けがや体調不良等緊急時に保護者の方と連絡が取れるよう、児童館利用登録が必要



になりました。いずれも、児童館で、行事の申し込みや利用登録の手続きができますので、どうぞお気軽にお越しください。



地域とともにある学校

広島市立三篠小学校

校長 森貞 小百合

三篠小学校は、学校教育目標「よく考え、心身ともにたくましく、心豊かな子どもを育てる」の下、“ひとり一人を大切にしたい楽しい学校づくり”を進めています。令和4年5月2日には、2年ぶりに遠足を実施することができました。1年生は

6年生と一緒に大芝交通公園へ、他学年は竜王公園へ行きました。6年生は、1年生が安全に楽しく過ごせるようにと、自分たちにできる限りのことを全力で取り組み、本校のリーダーとしての自覚を高めました。どの学年も、たくさん遊んだ後、大好きなおかずが入っている愛情いっぱいのお弁当を、黙って、にこにこ笑顔で食べていました。このように、楽しい学校づくりの大きな一歩を踏み出すことができ、大変うれしく思っています。

令和3年度より、本校は「コミュニティ・スクール」として、学校運営に地域の皆様の声を積極的に生かし、地域と一体になって特色ある学校づくりを進めています。初年度は、通学路の合同点検を行い、地域の皆様からたくさんのご意見をいただきました。ご意見を基に、市へ要望したり、通学路を変更したりと、児童の通学路がより安全なものになるよう見直しをすることができました。

1・2年生の生活科、3～6年生の総合的な学習の時間に、「三篠のふるさと学習」を進めています。三篠のことを知り、多くの地域の方に出会い関わっていくことで、「三篠に誇りと愛着をもち、よりよい三篠を作ろうとする子ども」を育てます。

今年度は「学校教育活動地域連携推進事業」として、6年生「三篠の藍愛プロジェクト」、2年生「さつまいもを育てよう」を地域と学校が一体となって取り組みを進めます。



地域貢献で 生徒の心の育成

広島市立中広中学校
校長 新川 恵美

中広中学校は、新入生210名を迎え、全校生徒635名、教職員67名で令和4年度をスタートしました。

中広中学校校長を拝命し3年目の春を迎えましたが、生徒・教職員が1番多い年度となりました。

この2年間コロナ感染症対策で地域行事や社会福祉協議会の活動にふれる機会が減少しているのが現状です。令和4年度、三篠のふくしの発行を再開するお知らせを聴き、活動が始まるようなワクワクした気持ちになっております。

中広中学校は、『生徒が主役の中広中学校』をキャッチフレーズとして、生徒が考え関わり合い



ながら中広中学校をつくっています。私たち教職員は、生徒が笑顔になり、「わかった」「教えて」と活動する姿に教員としての喜びを感じています。

多くの活動に制限がありますが、地域の中の中学校として、横川ふしぎ市に生徒が企画したブースを運営する機会をいただきました。このような機会を増やして、地域との関わり、地域貢献をして生徒の心を育てていきたいと考えています。今後、三篠地区のまちづくりに参加していくことを楽しみにしています。



毎日の横川商店街ご利用 ありがとうございます!

横川商店街連合会
会長 星野 哲郎

商店街はいろんなイベントを企画し、横川ファンのお客様に愛されるよう、様々な努力をしています。

例年定期的に2月「横川バレンタイン」、4月「横川カンパイ!王国 ふしぎ市」、8月「よこがわ・川・夏フェス」、9月「商店街劇場」、10月「横川ゾンビナイト」、12月「横川クリスマス」を催し、この合間に「横川はしご酒」「横川グルメラリー」と楽しんでいただいています。

この商店街催事の始まりは、令和4年4月開催した「横川カンパイ!王国 ふしぎ市」(以前は「横川ふしぎ市」と呼称)で、なんと26回目を迎えました。このイベントが、他の地域には見られない今の横川商店街繁栄の基礎を作った、と言っても過言ではありません。

先輩から聞いた話【今から28年前、アストラムラインの開業に伴い、横川駅経由のバス路線が大幅に減便された。当然商店街へ来る人も減り、商店街に活気がなくなりつつあった。この打開策と

して行政から「地域団体と共催して、横川商店街振興イベントをしないか？」と提案があった。商店街会議で協議・調整の結果、三篠地区社会福祉協議会様にお手伝いいただき、商店街の命運をかけ「横川ふしぎ市」が始まった。体協や青少協、子ども会に、屋台の準備や撤収までお手伝いいただいた。三篠社協様と同じ目的をもって一つのイベントを開催してみると、一体感が生まれ、普段でも気軽に話ができる関係に変わっていった。これが横川商店街の大きな力となり、お互いに助け助けられ、まさに共助の関係となってきた。】



アンジュヴィオレ広島 ご支援のお願い

広島横川スポーツカルチャークラブ
理事長 神村 登紀恵

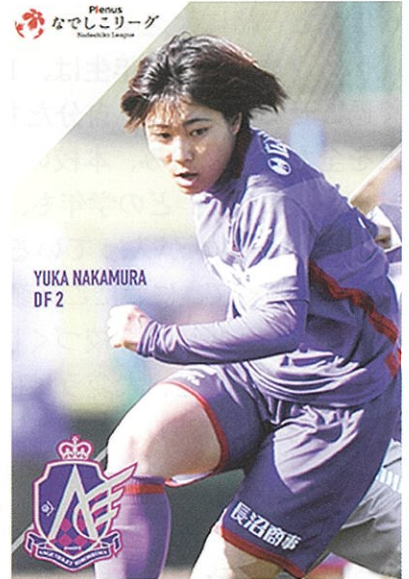
2012(平成24)年三篠体協の女子サッカー部として発足した「アンジュヴィオレ広島」は、なでしこリーグの中で唯一企業の母体を持たない地域クラブです。11年目を迎えた現在も体協・青少協・商店街のメンバーに加えて、クラブを応援して下さるボランティアで運営しています。選手は午前7時～10時まで府中町の揚倉山グランドで練習をし、その後、就職先のスポンサー企業で働きながら、リーグ戦に臨んでいます。

2020年、WEリーグ〔女子プロサッカーリーグ〕ができるという事で、アマチュアであるアンジュヴィオレ広島は、チーム存続について大きな岐路に立たされました。

私たちが資金集めや運営について、何度も話し合

いを重ねていく内に、やはり存続は難しいという事になりつつありました。その時、下部組織のアカデミーの保護者の皆さま、地域の方々が、どうかチームが存続して欲しいとプロジェクトチームを作り、『絶対存続!』を掲げて横川駅前や試合会場など、至る場所で応援をしていただいた熱意で存続が決まりました。改めて、アンジュヴィオレ広島は愛されている事を感じた瞬間でした。

しかしながら運営資金については、頭を抱えるばかりです。現在、向井監督の下でチーム一致団結して勝利に向けて邁進しています。このチームを存続して行くために、どうか地域の皆さまには、これまで以上のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



町内会長新規就任者のご挨拶

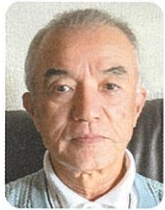


三篠町2丁目町内会

会長 新保 栄一

令和2年途中前任者から緊急引継ぎ、令和3年度から正式に引継ぎました。急なことで、右も左もわからず、バタバタしています。幸いにも経験豊かな副会長をはじめ町内会の方々のご援助で、大変複雑な町内会長の務めを果たしています。

丁度新型コロナウイルス禍と重なり、敬老会、秋まつり、亥の子、トンドなど様々な町内会行事が中止となり、経験を積む機会がありません。一日も早く、従来の伝統ある町内会行事が催し出来ることを祈っています。



三滝町町内会
会長 八木 和寿

自宅近くの櫻木の花が満開となり、花卉が風に舞う光景にワクワクしています。また、今年のカープは開幕6連勝し幸先の良いスタートを切りました。

しかし世間を見れば、新型コロナウイルス禍で当たり前の日常がなくなり、多くの方が先の読めない不安な日々を暮らしています。

幸いにも、広島でもコロナウイルスまん延防止等重点措置が解除され、三滝町でも会館が利用できるようになりました。早速、活き活き100歳体操等サークル活動が再開され、外出機会も増えているので、気がゆるまないよう自己管理に気を付けたいものです。

各部長新規就任者ご挨拶



自然災害に備えよう

防災部 部長 中江 正彦

三篠地区は山や川など自然に恵まれ、交通の便も大変良く、住み良い町ではありますが、近年の異常気象による豪雨災害や大震災、さらには大型台風通過など、大きな被害を受ける可能性も持ち合わせています。

現状では、行政や消防団、それに一部の限られた組織に地域の安全を委ねてきました。しかし甚大な被害から免れるために、住民主体の防災力向上の必要があります。

1. 自助…住民一人ひとりが、自分の命は自分で守る。
2. 共助…地域住民が連携し、町の安全はみんなで作る。
3. 公助…行政が、災害に強い地域の基盤整備を進める。

この3原則が連携を保てば、防災対策は効果を発揮することができるといわれています。

防災部では、大規模な災害が発生した際、地域住民が的確に行動し被害を最小限に止めるため、

日頃から地域内の安全点検や住民への防災知識の普及・啓発、防災訓練の実施



など、災害被害に対する備えを行い、また、実際に災害が発生した際には、被災者の応急措置、救出・救助、情報の収集や避難所の運営といった活動を行うなど、自主防災の意識を高め、行政及び消防団や防災士などと連携し、みなさんの大切な命や財産を守ることに配慮した組織づくりをしていきたいと思っています。



都市美化及び環境保全の推進

公衆衛生部 部長 渡部 幸男

公衆衛生部は都市美化及び環境保全の推進事業として、夏・冬の太田川放水路清掃、11月の「散乱ごみキャンペーン」として横川駅周辺と各町内会地域の清掃を行い、ごみのない町づくりに貢献しています。

毎年10月第1土曜日には、全16町内会・子ども会等役員のご協力、献血を実施しています。採血量が一人1回400ml献血となり、体重50kg未満の人からは採血できなくなりましたが、西区社協内では最多の献血者があり、感謝に耐えません。

秋の健康教室では、「健康寿命を延ばそう」を合言葉に、医療・介護従事者を講師に迎え、健康講演会を実施し、大盛況の勉強会となっています。



『社会を明るくする運動』の啓発・推進

更生保護部 部長 木本 博之

更生保護部では、今年度も『社会を明るくする運動』を中心に犯罪予防活動を推進してまいります。令和4年5月15日(日)～28日(土)には三篠公民館にて“社明”啓発パネル展の実施を皮切りに、同7月3日(日)には、横川駅前にて街頭啓発活動

とアルパークにて内閣総理大臣メッセージ伝達式の実施も予定しております。

その他、防犯パトロールカーとアドバルーン
の掲揚による啓発や「社明(社会を明るくする
運動)」標語パネルの掲示活動等も順次進めま
す。さらにはミニ集会(勉強会)の開催も再開さ
せたいと考えております。また、処遇支援活動
の一環で、中広中学校学校協力者会議にも参加
し、学校との連携をより一層深めてまいります。

犯罪や非行のない明るい三篠の地域をつくるた
めに、ひとり一人が更生保護についての正しい理
解を深めるきっかけとなる活動ができることを切
に願っております。

—令和6年2月150周年を迎える三篠小学校—



子どもたちのために、 学校・地域と共に

広島市立三篠小学校
PTA会長 鍛冶岡 誠

長引く新型コロナウイルス感染症の影響で様々
な制約がある中、小学校の先生方の様々なご努力、
地域の皆様のお力添えで、子どもたちは新年度の
学校生活をスタートすることができました。

P T Aとしても、学校・家庭・地域のつながり
を大切にし、子どもたちがより成長し、安全・安
心に学校生活を送ることができるよう、活動に
様々な工夫を凝らしながらサポートしていきたい
と思っています。

さて、三篠小学校は、令和6年2月1日をもっ
て、創立150周年を迎えます。現在、三篠地区社
会福祉協議会会長を推進委員長、P T A会長を実
行委員長(副実行委員長を小学校長)とする委員会
組織を立ち上げ、創立記念事業の実施に向けた準
備を進めています。150周年の創立記念日を迎え
る令和5年度には、記念式典や記念行事を開催す
るとともに、念誌の発行や記念品の作製・配布等
を行うよう検討を進めていますので、地域の皆様
のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

編集後記

三篠のふくしは、新型コロナウイルス感染症予防のため、団体活動が自粛され、2年間休刊しました。社協活動再開の兆しとともに、29号再刊にこぎつきました。会員の皆様の忌憚のないご意見・ご感想をお寄せください。

(広報部長 三好 康之)

「三篠の藍(アイ)復活・ 活用プロジェクト」 プロジェクトチーム一同

その昔、三篠地区周辺では、江戸時代から明治
にかけて上等な藍を生産し、染色原料「アイ」と
して、「製藍」、いわゆる「あい玉」が盛んに移出
されていたという歴史があります。

こうしたことから、令和3年度より、公民館と
地域団体、花づくりボランティア、商店街の関係
者及び地元在住の染色家等でプロジェクトチ
ームを作り、地域住民や子どもたちにこうした地
域の歴史を知り、もっと地元を好きになってもら
うきっかけや思い出づくり、この事業を通してコ
ミュニティの活性化等につなげていくための取り
組みを始めました。新型コロナの感染状況を見な
がらの作業でしたが、公民館での藍の種まき、育
苗から始め、三篠小学校でも6年生の総合学習の
一環として、三篠の産業の歴史や藍について学

んでもら
うととも
に、先生
方と力を
合わせて
花壇の整
備を行い、
子どもた
ちと藍の
定植、刈
り取りと
生葉染め
などを行
いました。



参加者も子どもたちも初めてのチャレンジでは
が、それぞれが特徴ある作品を作れて大満足の
様子でした。

今年度も三篠地区社会福祉協議会のご支援のも
と、小学校や公民館等で藍に関する取組を進めて
いく予定です。皆さんも藍染めを体験してみませ
んか。